

平成27年度 第1回八尾市産業振興会議 議事概要

日 時	平成27年7月17日（金）午後2時00分～4時00分
場 所	八尾商工会議所会館 3階 中小企業サポートセンター セミナールーム
出席者	<p><委員> 今井委員（工）、樫本委員、勝浦委員（商）、加藤志津子委員（商）、川江委員（商）、進藤委員、高橋委員（商）、寺西委員（商）、西寺委員、野田委員、藤岡委員（商）、藤原委員（工）、文能委員（工）、細川委員、山本委員 ※五十音順 ※（工）工業振興部会委員、（商）商業振興部会委員 計15名</p> <p><事務局> 村上部長、馬場次長、福井課長、吉武参事、大井参事、主井課長補佐、徳光室長、阪口係長、後藤係長、中西副主査、浦崎 計11名</p> <p style="text-align: right;">総計26名</p>

－事務局による司会で次第に沿って進行－

1. 開 会

配布資料を事務局より確認

2. 経済環境部長あいさつ

3. 委員及び事務局の紹介

平成27年度の産業振興会議の委員は、委嘱期間の2年目に当たるため、前年度と基本的には変更がないが、人事異動等の関係で新たに委員になられた方もいるため、改めて委員の紹介

事務局より、八尾市産業振興会議委員19名のうち欠席者4名、出席予定者1名となっており八尾市産業振興会議規則第3条に規定する過半数の委員の出席により、本日の会議が成立している旨を報告

4. 議 事

－座長による議事進行－

（1）平成26年度産業振興会議からの意見による事業展開について

『地方創生先行型事業5事業、他1事業』 事務局より資料1の説明

座 長：会議で議論した内容がどのように事業に反映されているのか、わからないという意見があった。昨年度の工業・商業各振興部会で議論・検討したものが、予算措置を伴って、本年度の市の施策として実行する内容についての事務局からの説明であったが、質問や意見はないか。本日の会議での議論の結果、新しい施策につながるような活発な議論をお願いしたい。

委 員：色々な事業に対して本年度の予算がついていると思うが、国の地方創生の予算で組み込まれたものか。また、資料に記載されている予算額は、市としてその分野の予算全体か1事業所あたりか。

事 務 局：予算措置のない④の事業を除き、地方創生先行型事業の予算を活用して実施するものである。また、資料の予算額は各事業全体の予算額である。

（2）平成27年度工業・商業振興部会のこれまでの検討内容について

工業振興部会での検討内容について事務局より説明

座長より部会についての意見

座長：工業振興部会では「操業・立地環境整備」について議論し、八尾市の事業所数が減少していく中、どう付加価値を高めていくかを考えた。八尾市は、ものづくりの重要な産業集積地として位置づけられている。しかし、昨今の厳しい操業環境は、製造業をとりまく非常に大きな問題となっている。近隣住民からは、騒音・大気・交通渋滞について苦情が寄せられ、工場があることが地域にとって悪かのように捉えられている側面がある。工場は、地域住民の働く場所を提供するなどの重要な役割を担っているのに、一方的な見方ばかりが強くなっている。工場側が一生懸命取り組んでいることが外からは見えないために、地域住民の理解を得られていない。工場のことを知ってもらう機会が少ないことが一因であるため、地域住民に工場のことを知ってもらわなくてはいけない。工場の集積を維持していくためには、工場で勤務する人も大切。次の世代から担い手を育てるには、地域との関係が重要。若い世代の製造業従事者が減っている現状の解決にもつながるのではないかと。また最近では国内外から工場見学がブームになりつつある。「ものづくりのまち 八尾」としての発信に力を入れて、地域と調和のとれたまちづくりを進めたい。大企業はこれまで海外企業に発注していたが、国内回帰の動きが強まっていると言われている。国内での仕事が増えつつある中で、八尾の製造業者が受注を確保して、八尾の産業発展が見えるようになって欲しい。続いて、工業振興部会の委員の方からも意見を頂戴したい。

委員：工業振興部会では、工場が廃業した跡地に住宅が建っていく現状について議論をしてきた。工場ばかり増えて人口が増えないと商業とのバランスが取れないので、バランスは大切。AED講習会や災害時の緊急避難場所としての工場活用が、地域との相互理解のきっかけになるのではないかと。

委員：事業所数の減少は八尾市だけでなく大阪府全体も同じ傾向である。その原因は海外との価格競争に負けているから。国内回帰の動きが強まっているとは言っても、その価格は海外価格であり、国内企業がその価格で受注していくのは厳しい。製造業者は厳しい選択を迫られている。八尾市の発展のために、1社1社の力を更に高め、独自性を強めた企業経営をしていくことが必要。また、技術開発するためには、まず工場立地に問題があるというような議論を部会でしてきた。騒音対策のためにかかる費用などマイナス要因は多い。貸工場の跡地に住宅を建てたために、近隣の工場の騒音が問題になるなどの事例が報告された。産業振興を考える点において、工業だけでこの厳しい状況を乗り越えることができるのか。この後の商業振興部会の報告を受けて後ほど発言させていただきたい。

座長：引き続き、商業振興部会から報告をお願いしたい。

商業振興部会での検討内容について事務局より説明

商業振興部会長より部会についての意見

部会長：今年度は、衰退基調にある八尾の商業を活性化するため、有益な情報が必要とする人たちへと流れる情報連鎖の基盤づくりについて議論した。市長への提言として、「ネットワークづくり」や「キーパーソンを中心に取り組む事業」を掲げることは、地味で華やかさに欠けるのではという恐れがある。しかし、商店数が1/3になるという危機に対処するには、短期的な取り組みではなく、根本的な商業活性化につながる施策提言が必要である。ネットワークを増やす取り組みが全市に広がれば、八尾の将来の産業振興に大きく貢献するのではないかと。

座長：商業振興部会の委員の皆様からもご意見を頂戴したい。

委員：ネットワークづくりは本当に地味だが、少しずつ行動を起こしていくことで後に繋がっていく。

- 委員：地域イベントを通じて、その時は期待しない効果が得られることがある。息子が参加している環山楼塾で知り合ったイベント会社の方と仲良くなり、9月のイベントに参加してもらうことになった。ここで学ぶことで少しずつ人のつながりが広がっている。
- 委員：今回議論している「ネットワークづくり」に関してだが、Facebookが浸透しているので自店の販促に活用している。投稿した結果、反響があり5名来店があった。「情報の発信」は大事だと実感しており、個人よりも多くの方とつながっていくことで、そこから新たな展開がある。
- 委員：ネットワークをどう広げていくかを考えるために、ツールに注目して商業振興部会では社会実験などを行い、商業者の間ではどうネットワークが広がっていくかを中心に検討した。6月に、大学生とともにタウン誌を作成した。学生や人とのコミュニケーションにICTを活用することもあるが、アナログツールによるものもまだまだ有効であった。
- 委員：情報連鎖するためには、情報の中身を理解することが必要である。この会議に出席している委員は情報を知っていて他の人にも伝えようとする層であり、私の周りの商業者たちは、情報を知らない・知ろうとしない層が多い。直接こちらから良い情報を教えてあげないと動かない。私がこのような会議に出席して力になれたらと思っている。
- 座長：ここまで、工業・商業振興部会で議論してきたことをご報告いただいた。大阪府などの施策で活用できるものがあればご紹介いただきたい。
- 委員：ネットワークの構築は情報の連鎖において有効だと先ほど報告があったが、「ネットワークづくり」は情報の共有や新たな価値を創造することで相乗効果がある。府が実施している「エコノミック・ガーデニングおおさか」は中小企業を支援する支援者側のネットワーク（産学公民金の連携）で、約70の機関がつながって、支援事例の共有化やよりよいビジネス環境の創出を図っている。また、高齢化社会に向けて、健康関連事業をクローズアップし、市町村や金融機関等が参画するプラットフォームをつくっている。ネットワークづくりにより、これまでの行政一本のやり方よりも、様々な機関が集まって実施していくことで新たな価値を生み出していくことが期待される。また、製造業の人材育成としては、府は高等職業技術専門学校を設置して人材育成を図っており、人材確保の面では商工会議所などと連携して合同企業説明会を行っている。加えて今年度は地方創生の国の交付金を活用して、ものづくり企業で高校生がインターシップなどを行う事業を実施している。こういった事業の活用についても視野に入れていただきたい。
- 委員：視点を変えて今後検討をお願いしたい件がある。これまで工業・商業で検討をしているが、八尾市全体の経済の状況を考える視点に立つと、工業・商業で分ける必要はない。域内域外の資金循環を考え、支援対象を絞り、八尾の経済の活性化を検討して欲しい。産業政策のポイントは持続性であるが、産業政策で経済活性化を進めるには時間がかかる。官民連携、住民の知恵を集結し、検討いただきたい。国は市町村ごとに産業連携、地域経済循環がわかるようなシステムを組んでいる。順次この秋くらいから見られるようになる。また、施策は「見える」化が重要であり、施策を利用した方がうまくいった例、失敗した例を「見える」化し、経産局は八尾市の展開する施策をサポートしていきたい。
- 部会長：商業部会、工業部会で議論した内容をいかに統合するかが今後の課題。工業・商業振興部会をつなぐ一つのポイントに卸売業がある。日本の流通政策は、これまで小売政策を重視してきたが、経産省の政策として、広い意味での商業全体を包括できる内容があれば、教えていただきたい。
- 委員：卸売業は重要だと認識している。コネクターループ企業はこれから地域で注目されると思われる。コネクターループ企業を特定し、支援体制を検討するなど、多様な視点を踏まえて推進していきたい。

たい。

委員：市では様々な良い施策をつくり予算を付けているが、使えばなしになってしまっている懸念がある。この施策を利用したから八尾市の経済が良くなった、良い企業がたくさん出てきたという結果を残さなくてはならない。施策を利用する側が良い結果を生み出さなくてはならない。その視点を踏まえ、異業種グループを立ち上げて、商品開発を行ったが、販売力が弱い。商業振興部会で議論された「ネットワーク」「キーパーソン」というキーワードは興味深い。行政主導ではなく市民団体のつながりを立ち上げ、絞り上げた議論ができるような機関がいくつか必要ではないか。ロボットの中身は弊社と八尾市内製造業者で提供し、外側のパーツや部品を3Dプリンターで製作予定である。「ロボットのまち」として一步踏み出せるのかもしれない。商業者と製造業者の信頼関係が、時に新しいビジネスを見つけ出せる可能性がある。小さなビジネスを八尾ではじまれば、八尾市全体の活性化につながる。このようなことを一緒に考えることができる民間のグループを作りたい。

座長：昨年度から、工業・商業それぞれの実態調査を踏まえて深い議論を行うために、部会に分けた。今後の八尾がどうすれば特徴あるまちとして存在していけるか、消費者（市民）の視点も踏まえ、皆様に議論いただきながら進めていきたい。

(3) 今後のスケジュール及び平成26・27年度活動報告について

事務局より資料3の説明

座長：8月の合同部会では、工業・商業の垣根を越えた議論ができることを期待している。地域経済の活性化に向けて、それぞれの立場における役割や求めるものを今後検討していく。今までの議論を踏まえて、ご意見を頂戴したい。

委員：消費者は、製品は「いいものを安く」を求めてしまう。これからの高齢化社会を担うのは今の子どもたちであることから、小さい頃からの消費者教育が重要ではないか。また、消費者も情報連鎖については、同じピラミッドの層になっているため、私の団体会で会議を開催した際には、参加者には学んだことを必ず地域に持って帰って、必ず隣近所等々の方に伝えましょうとお願いしている。自分たちの住んでいる地域の商業が活発化するのには消費者にとっては有意義なことである。

委員：リーダーシップを取れる人を育成する施策を展開されることで、工業・商業の事業所数の減少を食い止められるのではないだろうか。情報の発信についてだが、消費者団体を利用してはどうか。地域のリーダーが集まっている場なので、この人達に情報を伝えたら、各々が地域にその情報を持って帰って拡散してくれる。我々の団体と合同で何かできることがあれば、いつでもお手伝いさせていただきたい。

委員：商業者間の情報連鎖に関して、ネットワークの構築はとてもいいことだと思う。商品の良さをどうお客様に伝えるかで私どもは非常に苦労している。その会社（商店）ならではの商品の良さ、独自性を消費者にどう伝えるか。昔はチラシやDMが主だったが、今はLINEやFacebook、モバイルなどたくさん手段がある。しかし、都心部の店に比べると八尾のお客様のSNSへの感度は薄いので、消費者への情報伝達方法を考えることが重要である。

委員：以前、ある総合病院の売店として、コンビニエンスストアが入居することが決定した。その目的が従来だと患者や利用者のためであったが、今では医者や看護師の福利厚生へと変化している。医工連携から医商連携へ転換している。コンビニにケアマネージャーを常駐させて、そこで相談窓口を設けるという取り組みもある。それは病院のナースステーションに介護相談窓口

を設けるよりも、病院併設のコンビニならば敷居が低いというのが狙いである。このような複合した案件が最近非常に増えている。金融機関として、資金面だけでなくビジネス需要についての情報提供もしていきたい。

座長：本日たくさんのご意見を頂戴した。これらを踏まえて合同部会を実施したいと思う。

(4) その他の報告事項について

事務局より参考資料の説明

座長：産業（経済全体）としてつながっていくことが大事だということを認識し、合同部会での今後の方向性について確認していただいた。これから八尾はどのようなまちづくりをしていくのかを引き続き検討していきたい。本日言い足りなかったことは次回の合同部会でご発言をお願いしたい。

5. 産業政策課長あいさつ

6. 閉会

以上